

高崎市広域圏の路線バスを総括した課題解決に向けた研究

経済学部 教授 大島 登志彦

研究成果

高崎市内の路線バスの利用促進と活性化、事業者や自治体相互の連携やそのための適正な広報資料のあり方などを、2017年度までの研究に引き続いて、群馬県・高崎市で参考になりそうな国内の路線バスの実態調査と資料収集に心がけた。また、近年地方都市でも、ICカードが普及しており、2020年度に群馬県央・北毛地域で導入計画だという。

ICカードは、交通系（SUICA・PASMO等）のほか、地域独自カード、コンビニ主導型、大型ショッピングセンター主導のものなど幾つかの方式があり、各々の導入コストや長短所・適材適所等を考察して、群馬・高崎で導入を進める場合の指針などを提案することを研究課題としてきた。また、出張調査時には、観光二次交通のあり方や事例研究に関わる実態調査も併用した。以下主要な関連調査の出張と主内容を記す。

・6月28～29日：青森市周辺と北上市などのバス事情

（青森市：市営バスとしての歴史的系や近年の市域以外の撤退に関する聞き取りや資料収集）

（北上市：採算性のあるデマンド交通を運行している旨で資料収集=他の事業と兼営して黒字経営とのことだった）

・8月28日：鬼怒川・日光の観光交通

（東武バス日光が導入した電車型バス、鬼怒川地域のバス事情）

・9月3～7日：北海道の鉄道・路線バス事情

（西日本鉄道等九州数社と同類ICカードを導入した函館バス、イオン=waonと同類ICカードを導入十勝・釧路バス帯広・釧路）

・9月28～29日：野沢温泉・黒姫・中野・湯田中周辺のバス事情

（野沢温泉・湯田中：温泉内循環バスや周辺集落への連絡バス、黒姫・斑尾高原周辺：観光二次交通の沿線住民利用）

・3月20～23日：四国・福山のバス事情と交通遺産

（四万十川流域の観光二次交通、室戸岬周辺=鉄道がない地域の長距離バス事情、福山鞆のボンネットバスを活用した定期観光バス）

これらの研究の成果報告として、下記の論著に調査や収集資料を活用してまとめた。

- ・「地方都市域の路線バスの変遷と検討課題 -群馬県内の事例を中心とした考察-」
（日本交通政策研究会の研究プロジェクトの報告書『公共交通サービスにおける経済理論と実務の乖離に関する基礎的研究』が2019年5月に発刊予定）
- ・「群馬県における公共交通の利用促進とそれに関連した社会か教育」
（群馬社会科教育学会作成の著書の中の1つの章として掲載され、2019年7月頃に刊行予定）